

浦添市美術館ニュース

きよらさ 52

2007年 4月1日(年3回発行)

きよらさ…「美しさ」「清らかさ」を表す琉球の古語



〔黒漆花鳥螺鈿箔絵密陀絵漆絵盆〕
(18～19世紀)

平成19年度
前期常設展

「ひろがる花」

今期の常設展はまず琉球漆器の歴史を作品を通して紹介、またテーマ展示として花をモチーフにした作品を展示します。

琉球に限らず、工芸には様々な花の文様が使われています。牡丹や椿、ハイビスカスなどが単独で描かれたり、梅に鶯、蓮に鶯といった花鳥の組み合わせ、唐草との組み合わせなどの華やかな図柄は、琉球でも好まれて様々な技法の作品が作られました。

今回は花を図柄に取り入れた様々な漆器に、少し染織や陶芸もプラスして花文様の広がりを紹介していきます。

現在作られている琉球漆器では、ハイビスカスやデイゴ、ユウナといった地元で見られる花が図柄の中心になっています。しかし、こうした地元の風物が文様として使われるのは明治以降、特に戦後に沖縄らしさを前面に出した土産物製作が盛んになってからのことです。



黒漆獅子デイゴ堆錦盆

花＋α

では、琉球王朝時代は、どんな花の文様が使われていたのでしょうか。

古い時代、花だけを単独で表現することはあまり見られず、花鳥や様々な木や動物と共に描かれる「鳥獣草花文」、花に唐草の組み合わせといった文様を器物全体に表現する、といった作品が中心でした。

一七〇一八世紀の「黒漆鳥獣草花箔絵椀」では、竹や柳、さくらの木や、虎や鹿、ウサギといった動物、鶏や種類不明の小鳥などと共に萩や椿の花が表現されています。様々な動植物が共に描かれる図は、生命と楽園の象徴ともいえます。

安土桃山時代に日本からヨーロッパに輸出された南蛮漆器には、器物全体に広がる樹木に鹿や鳥などが金箔で表現された作品があり、この時代に好まれた表現だったのでしょうか。

この他にも、琉球漆器には中国や日本などの絵画や工芸の文様を手本にしたと思われる作品もあります。

「黒漆山水楼閣螺鈿伽羅箱」には、細かな貝を用いた螺鈿技法で、萩やアジサイ、菊などいくつもの草花を組み合わせた文様が表現されています。こうした季節の草花や、春夏秋冬の季節を越えた草花の組み合わせは、様々な絵画や工芸に見ることが出来ます。今回はこの作品と、やはり春や秋の草花を表現した日本の時絵徳利を並べて紹介します。どんな花が描かれているのか、表現の似たところ違っているところを見比べて、探してみてください。

琉球では花と鳥を組み合わせた文様「花鳥図」の漆器も盛んに作られました。椿や牡丹の花に鳥が二羽飛んだり止まったりする図柄は定番化され、幾種類も似たような盆のセットが作られました。

一方、一六〇一七世紀に器物全体を



黒漆山水楼閣螺鈿伽羅箱

埋めるように表現されていた文様は、だんだん空間のゆったり空いた文様に変わっていきます。花の文様もいろいろな種類を描くのではなく、一つの種類だけという作品がでて来ます。

一八〇一九世紀の作品「黒漆折枝漆絵螺鈿膳」は、膳の中央（見込）部分に大きく水仙や芙蓉の花を一枝描く、というもので、黒を背景に花が浮かび上がるような印象的な作品です。こうした文様表現の変化は、時代の好みが変わったことや、博物学の流行で動植物を単独で描いた絵巻物や本の影響も考えられるかもしれません。

このコーナーでは、時代変化や文様の組み合わせによる、いろいろな「花」の表現を楽しめることができます。



花と唐草

花の文様の中で、もう一つの大きなジャンルが唐草です。葉や茎、ツタが時には渦を巻き、時には長く伸びていく唐草の文様は、生命力や子孫繁栄のシンボルとして用いられてきました。エジプトやギリシャ・ローマからアジア各地に至るまで様々な表現が生まれています。

唐草にも蓮や牡丹などの花の唐草、ヤシの唐草、葡萄などいろいろな種類がありますが、このコーナーでは琉球の花唐草と共に、中国や日本、東南アジアの唐草文様をあわせて紹介します。

右下の作品は戦前の日本で作られた盆ですが、鳥の羽が葉っぱに変化し、さらにその葉が花唐草と一体となってひろがっていきます。なんとも不思議な文様です。しかし、鳥と唐草が渾然となった文様はこれだけではなく、一六〜一七世紀中国の作品にも鳥と花唐草が一体となったような文様が見られます。

琉球漆器では、牡丹唐草が古い時代から現代まで、少しずつ表現を変えながら用いられてきました。

一六〜一七世紀には、彫った線の中に金箔を埋める「沈金」と呼ばれる技法で、器物全体に細かな線で牡丹唐草を表す作品が作られました。

一七〜一八世紀になると、中心の文様は山水や人物図が多くなりますが、その周囲に花唐草が配置されたりします。

再び牡丹唐草が主文様になるのが、



花鳥古代塗角盆

一八世紀以降です。漆で文様を描いて金箔を貼る「箔絵」という技法で、定型化された大輪の牡丹唐草の作品が盛んに作られます。この牡丹唐草は主文様だけでなく、山水人物図などの主文様を囲む脇の文様としても用いられ、この時代人気のあった図柄であることがわかります。

琉球では鉄線唐草や菊唐草、種類不明の花唐草などいろいろな唐草が使われましたが、なんといっても華やかでめでたい意味合いのある牡丹（牡丹は中国では富貴を意味する吉祥図案です）の唐草は、花唐草の中でも一番琉球人に好まれた文様だったに違いありません。

名品室の花

今期もまた常設展示室中央に、琉球漆器名品室のコーナーを設けます。その中でも、花鳥や唐草の文様を持つ作品をいくつか紹介いたします。



黒漆花鳥螺鈿器局

「黒漆楼閣人物螺鈿掛板」は、螺鈿で楼閣人物図と文字を表裏に表していますが、楼閣図の縁周りには花唐草に唐子や鳳凰が絡んでいる図が配されています。唐草に人物が乗っている図は、オリエントや中国の文様にも見られ、そうした図柄の工芸品などが琉球にも伝わって取り入れられたのでしよう。

「黒漆花鳥螺鈿器局」は蓋に水辺の鳥と水仙、側面や上面にも梅やザクロなどの木と鳥の図、蓋を開けると中にも鳥や花といったようにいろいろな花鳥図が描かれています。また花唐草だけでなく葡萄や南蛮唐草といった唐草が見られるなど、様々な関連した表現が見つかる作品となっています。

文様の中心となるだけでなく、さりげなく脇を飾る花や花唐草の図柄。気をつけてみると、いろいろな所に花の文様が発見され、きっと作品を見る楽しみが増えるはずですよ。

（前期常設展は四月二七日より）

平成19年度

「企画展案内」

会 期	名 称	主 催
3/31 ~ 4/8	紙-明松政二手漉き和紙展	明松政二
4/18 ~ 4/22	パッチワーク&ハワイアンキルト作品展	中村弘子
4/27 ~ 5/27	ウルトラマン誕生40年の軌跡「ウルトラマン伝説展」	同展実行委員会
6/19 ~ 6/24	沖縄平和芸術祭～祈りのことば～	日本情操文化学会
11/1 ~ 11/11	ウエチヒロ展	沖縄タイムス社
11/15 ~ 11/18	浦添市文化祭展示部門(仮称)	浦添市文化協会
1/16 ~ 1/27	第8回浦添市小中学校美術作品展	浦添市美術館
2/13 ~ 2/17	浦添市美術館実習教室発表展	浦添市美術館
2/20 ~ 3/24	琉球漆器名品展(仮称)	浦添市美術館

平成十九年度も当美術館自主企画展のほか、共催企画展や個展など、規模やジャンルを問わず優れた芸術作品が展示されます。

なお、現在調整中の企画展もあるため、決まり次第当美術館ホームページや広報誌などでお知らせしたいと思えます。

*上記日程等は変更する場合があります。

当美術館自主企画展

■第八回浦添市小中学校美術作品展

浦添市内在中の小・中・養護学校及び基地内小学校の児童生徒の優れた作品を展示します。
観覧無料

■浦添市美術館実習教室発表展

平成十九年度に開講予定の実習教室で制作される作品を展示します。
観覧無料

■琉球漆器名品展

当美術館所蔵品の中でも優れた琉球漆器を中心に、県内外の博物館などで收藏される琉球漆器の名品を展示します。沖縄ではあまりみることでできなかった県外に伝わる琉球漆器をおおしてその魅力を紹介します。

また、会期中には関連事業も開催されます。
有料

美術館共催企画展

■ウルトラマン誕生40年の軌跡「ウルトラマン伝説展」

一九六六年にテレビの空想科学番組として誕生したウルトラマンは、子どもたちに夢と希望を与えた永遠のヒーローであるとともに、社会性を織り込んだそのストーリーは多くの疑問を投げかけるものでした。

本展覧会ではその中でも初代ウルトラマンに焦点を当て、その時代背景やストーリー、造形などをとおして、魅力や存在価値を探ります。ウルトラマンの持つメッセージ性は当時子どもだった方はもちろん、今の子どもたちにも充分通じるものがあります。この機会にぜひウルトラマンをとおして当時を思い出し、今の現実社会を見つめてみませんか。

観覧料 一般 八〇〇円

高 大 生 六〇〇円

小 中 学 生 四〇〇円

■浦添市文化祭展示部門

浦添市文化協会会員のみなさんの日頃の活動の成果を発表します。
観覧無料

平成18年度

1月～3月の 事業報告

- 展覧会
- ワークショップ



■第七回 浦添市小中学校美術 作品展 事業報告

二月七日から十八日にかけて、浦添市小中学校美術作品展を開催しました。今年は市内各校から二八八点の作品応募があり、加えて基地内キンザー小学校児童生徒の作品三十八点を招待展示しました。粘土や木材などを用いた造形作品や、大きな紙面に数名で描いた作品などが目立ちました。その中から特に優れた作品三十三点に対しては、浦添市長賞・教育長賞・PTA連合会長賞を授与しました。浦添市長賞を受賞した「アフリカンサファリパーク」は、様々な形の木材を組み合わせてキリン、ゾウ、シマウマなどの動物をかたどった賑やかな作品で、観客の目を惹きました。

さらに、初の試みとして、ポストカード程度の大きさの用紙に絵を描いた「小さな絵」展を併設しました。各学校から合計四〇〇点余の作品が出品され、美術館の講堂を埋め尽くしました。ポストカードには、絵に対して一言コメントを書いてもらったのですが、ユーモラスな表現が多く見られ来館者からも好評でした。



展覧会の様子

■アジア・ファイバー・アート展 in 沖縄

同実行委員会主催による、日本をはじめとする韓国、中国、東南アジアなど、アジア各国の現代作家の展覧会が、三月九日から三月二十五日にかけて開催されました。

作品は「繊維」をキーワードに、織る、染める、編む、縫るといった繊維素材で加工され、染織工芸の領域にとらわれない作品を展示しました。普段接することのできない現代美術作品にふれあうことができたためか、とても盛況のうちに展示を終了することができました。

さらに、展示の一環として、三月二十四日には子ども向けワークショップもあわせて開催され、子どもたちは楽しそうに参加していました。

また、三月十日には南風原町文化センターにおいてシンポジウムもあわせて開催されました。



エントランスホールでの展示風景

■パパと キッズの アートワークショップ!

「パパも昔はこどもだったんだ」「パパが子供のころ一番嬉しかったことは?」「パパのパパって、どんなパパだったの?」…。

一月二十八日、父と子のためのアートワークショップが開催されました。講師は、今若者に人気のイラストレーター、MAYA MAXX氏。このワークショップは、お父さんが子供の頃の話をし、子供はその話をイメージして絵を描くことで、父と子のコミュニケーションを深めようというものです。二十数組の親子が集まりMAYA MAXX氏の軽快なトークでワークショップがはじまり、終始和やかな雰囲気でした。

父と子のコミュニケーションから生まれた絵は素晴らしいものばかり。普段はあまり聞くことのないお父さんの昔の話を聞き、子供達がそれをイメージしながら絵を描くことで、豊かな感性を伸ばすきっかけになればと願っています。



ワークショップの様子

表紙の言葉

『黒漆花鳥螺鈿箔絵密陀絵漆絵盆』



「黒漆花鳥螺鈿箔絵密陀絵漆絵盆」

直径 36 センチの、花鳥文様の盆です。

この作品は、全面黒漆塗りの上に、いくつもの技法を用いて文様を表現しています。左上の芙蓉の花や葉、鏝部分は、漆で絵を描いて金箔を貼る箔絵技法で表しており、黒に金が映えて非常に華やかな作品となっています。

花びらの一部には厚めの貝を貼ったり、鳥や花には漆絵（顔料を混ぜた漆で絵を描く）や密陀絵（油に顔料を混ぜ絵を描く）の技法を用いて、貝の白や緑、桃色が絵にメリハリをつけています。更に鳥のくちばしと足の赤が目を引きまします。

琉球漆器では花鳥図は古くから文様に用いられ、重要文化財に指定されている「花鳥七宝繫文密陀絵沈金御籠飯」（徳川美術館蔵）や、県指定文化財の「朱漆牡丹尾長鳥螺鈿卓」（当館蔵）など、代表的な作品のモチーフにもなっています。

なかでも盆の中央に大きな花と二羽の鳥を配した図柄は、沈金技法（彫った線に金箔を埋め、金の線で文様を表現する）の作品が 16～17 世紀に作られています。密陀絵や箔絵技法で花鳥を表現した丸い盆は 17～18 世紀頃から作られ、定番化してその後幾組も盛んに作られました。

ただ、多くの花鳥盆の文様が椿の花とカササギらしき鳥なのに対し、この作品では酔芙蓉でしょうか、八重咲の芙蓉の花と芦の葉、カワセミが描かれています。

日本画や歳時記ですと、カワセミは夏の季題、芙蓉は秋の季題で取り上げられたりしますが、この作品ではそうした季節制約にとらわれず、花鳥がのびのびと描かれています。

中国語では芙蓉の「芙」と「富」が同じ音（イントネーションは別）、「蓉」と「栄」が同発音ということがあり、芙蓉は“富み栄える”という吉祥の意味合いを持つおめでたい文様として使われています。

また盆の鏝部分には枠を取って、牡丹や蘭、梅などの花枝文を表しています。牡丹は「富貴」を意味する図で、蘭や梅は菊・竹とあわせて「四君子」と呼ばれ気高さを表したり君子になるようお願いを込めた文様です。これらもやはり吉祥文の一つとして絵画や工芸の文様に用いられています。

花鳥図の盆はその華やかな図柄と共に、めでたい意味合いが喜ばれていたのでしょうか。

この作品は前期常設展「琉球漆器名品室」のコーナーで紹介しますが、テーマ展示の「ひろがる花」ともあわせて御覧いただきたいと思います。

美術館スケジュール 2007年4月～7月

■ 常設展

琉球王朝文化の華－漆芸

・平成 19 年度前期 「琉球漆器の歴史とひろがる花」

4月27日（金）～10月上旬

・ギャラリートーク

5月3日（土）、7月7日（土）午後2時

■ 企画展

・4月27日（金）～5月27日（日） ウルトラン誕生40年の軌跡
「ウルトラマン伝説展」

■ ギャラリー

・3月31日（土）～4月 8日（日） 紙・明松政二手漉き和紙展

・4月18日（水）～4月22日（日） パッチワーク&ハワイアンキルト作品展

・6月19日（火）～6月24日（日） 沖縄平和芸術祭～祈りのことば～

開館時間

午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

* 金曜日は午後7時まで（入館は午後6時30分まで）

休館日

毎週月曜日

*臨時休館（展示替えのため）4月24日（火）～26日（木）

琉球八景パンフレット発売開始！



琉球八景パンフレット
1冊 350円

このたび、当館所蔵作品「琉球八景」を紹介するパンフレットを作成しました。

琉球八景とは、浮世絵師・葛飾北斎による八枚の浮世絵で、琉球・那覇の名勝地が描かれています。かの有名な北斎が、琉球を題材として浮世絵を描いていることが話題をよび、最近では雑誌等で取上げられる機会が多くなっています。そのせ

いか、今まで以上に琉球八景に対する関心が高まりつつあります。

当美術館も、できるだけ多くの方々に作品を鑑賞して頂きたいところではありますが、同時に作品の保管にも務めなくてはなりません。劣化を防ぐために展示期間を一定に定め、展示後は作品を一定期間収蔵庫で休める、といったことが必要なのです。そのため、本物の作品は最短でも1～2年に一度の割合での公開になります。

そこで、いつでも琉球八景に関する情報を提供できるようにと、紹介パンフレット作成に至りました。琉球八景の写真と多少の解説を掲載していますので、興味のある方はぜひお買い求めください。浦添市美術館内ミュージアムショップにて発売中です。

編集・発行 浦添市美術館

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1-9-2

Tel:098-879-3219 Fax:098-878-1221

http://www.8761234.jp/urasoe_hp/art/